

1. 福岡市内の河川における一般医薬品類の実態調査

環境科学課 豊福 星洋
中央区衛生課 小原 浩史
保健福祉局食品衛生検査所 平野 真悟
環境科学課 松尾 友香

第 22 回環境化学討論会

近年, 下水放流水や河川水などの水環境中から様々な医薬品類が検出されているが, 医薬品類は難分解性のものが多く, また本来の目的として生理活性を持つため, ヒトや水生生態系への影響が懸念されている。

本研究では LC/MS/MS による一般医薬品類 31 成分の一斉分析法を用いて, 福岡市内を流れる河川の環境基準点 19 地点と補助地点 12 地点における実態調査を行った。その結果, 15 成分が検出され, その中でも特にカフェインやクラリスロマイシン等が多く検出された。地点別にみると, 高濃度で検出された地点では上流に下水処理場の放流水が流れ込む, または下水処理場の放流水が流れ込んだ水が満潮時に混ざることが影響していると考えられた。